



R.I. District2610. ROTARY CLUB OF UOZU  
**魚津ロータリークラブ 会報誌**  
2008—2009年度 RI会長 李 東建 (リドンカン)  
魚津R.C会長 大村 雅紹

## 第2641回 例会報告

2008年 7月25日

**ゲスト並びにビジター紹介** ゲスト 長井 真隆様 (ゲスト卓話) ビジター なし

**誕生日祝** 7月29日 清水君 誕生日のお祝いありがとうございます。66歳になります。激動の人生を送ったと思っています。市議員20年を節目の今年、辞めました。いろいろありましたが自分ながらうまくやって来たと思っている。日々、歳をとっているが、それなりの体力でそれなりの事をやっている。今後も、皆様のご指導ご鞭撻を頂いて有意義な人生を過ごしたい。よろしくお願いします。

### ゲスト挨拶

**会長挨拶** 大村会長 毎日、暑い日々が続きますが暑さに負けずに頑張ってください。清水さん、長い間、市議を頑張られました。今後は、ロータリー活動に力を入れて頂きたい。長井先生、忙しい中、ありがとうございます。私の小学生の時の担任の先生です。元気に敬服します。卓話をよろしくお願いします。

**幹事報告** 七尾RCより 活動計画書が届いている 魚津市芸術展覧会 後援依頼

魚津市 副市長退任・就任挨拶状が届いている

**ポリオ撲滅** 各社にFAXしました。2500円/1人、8月1日までに出来るだけ取めて下さい。

また、期初方針説明時の2000円/1人の記載は、2500円の間違いでした。お詫びします。

**出席報告** 32名(欠席:4名) 88.88% メイキャップ済:谷川、中島、若田、金山、松田、関口  
第2639回 メイキャップなし 97.22%

**ニコニコボックス** 宮本君 僧ヶ岳へ行ってきました。環境抜群でした。

寺崎君 滑川RCメイキャップ、大変、歓迎されました。

**委員会報告** なし

**本日の卓話** 長井 真隆様 …【僧ヶ岳の雪絵と環境温暖化】



**【経歴紹介】** 昭和6年黒部市生まれ、公立学校教員、S54富山市科学文化センター館長、H元年富山大学教授、平成5年付属中学校校長を兼務、H8年定年退職 **現在** 富山県森林審議会会長、県文化財保護審議会委員、県環境審議会副会長、県ビオトープアドバイザー、国交省北陸地方整備局ダムフォローアップ委員など **著書** 富山県植物誌、とやま植物誌、富山のひとと植物、豪雪、食卓の自然誌、黒部・自然とのつながりなど **受賞** 日本博物館協会 棚橋賞、読売教育賞、中日教育賞、富山新聞賞、富山県功労知事賞、環境大臣賞など

**【卓話】** 魚津RCは初めてです。皆さんの「我らの生業」声量がすばらしく発表会でもどうでしょうか。

温暖化について…文化論、テレビ映像など、あまりにも強烈過ぎる。何でも温暖化に結び付けている。気象協会の専門家が温暖化により僧ヶ岳の雪絵が変わったと専門家でもそう思っている。魚津で一番身近な僧ヶ岳の雪絵について話をしたい。雪絵、雪形とは、例えば、山に雪があって、だんだん溶けていろんな模様が出来てくる。白馬岳は、長野県大町できれいに撮れるが、「はくば」の名前の起こりは、黒馬に見えるが白馬には見えず、拡大すると大きな馬である。田に水を張って、田植えの「代掻き」→シロカキウマ→カキが省略→シロウマの名となった。関東の登山ブームで「シロウマ」は「ハクバ」、

ハクバ村、ハクバ駅となってしまった。人との関わりの影響が非常に深く、地元の人たちと旅の人によって攪乱された。雪絵は300近くあるが、農業の「代掻き」を行う時期だけの目安である。

僧ヶ岳は、3月後半から4月の初め、山肌が見えて僧が見える。消えている間は晩霜の恐れがあり、温床の苗の定植を控える。5月初め連休の頃の僧の姿は、やがて夏になると、大入道や猫、残雪のうさぎが出来る。僧の袋が大きくなり、坊さんの袋が大きくなると、今年は麦も稲も豊作と期待する。5月



の終わりの6月の初め、ウサギが痩せこけていると、僧は麦をもらえなかったことになる。猫が大入道の肩に手をかけると、水量を予測し干ばつの目安に使う。僧が尺八を吹き馬をひく姿が変わると、左下に立派な鶏が現れ、尾が出るとスイカに2番肥えやる目安となる。面白い話がある。

大光寺のばあちゃんの話。昔、町を僧と馬と一緒に通ったとき、大風が吹いて、山に吹き付けられた。毎年、田植えの頃に出るといいう物語である。7月になると、僧が太って馬も見れなくなり、布施川水溪の水もぬるみ、親が子に川遊びをして良いと出す。

黒部と魚津の違い、黒部は農耕の目安、魚津は水量の目安、片貝川の水を集める面積は黒部川のおよそ1/10の水量である。よって、なし、りんご、ぶどう作業の種類まで違って来る。片貝の蛇石があり、雨乞いの神事に使われている。水が不足すると、鍬、スコップで雪溪を崩したものだ。魚津では水と関わりに深刻なものがあつた。

気象協会の人の僧ヶ岳の雪形、温暖化でどう変わったか知りたい→何を言うかと思った。S63年の普通の時の雪形も、昨年も今年も同じ大きさである。今年は新雪の状況で境界線が分らないかも知れないが、むしろ雪が多い。平野部の気温が3度で雨、100mで0.5度下がり頂上では-6.3度になる。S20年、一年間の平均気温は平均13.5度、56豪雪を境に、どんどん上がって平均14.5度、1月の気温が大体2度で来ている。空から降るものは本来雪だが3度で雨になっている。1月の雪の量→トータルの降水量は56年以降急激に下がって降るべき雪が半分、雨が半分以上となり絶対量が増えてきている。温暖化によって、海上の大気変動が活発となり、陸地へ雨を運び、山で雪になる。一律に雨だ、雪だと限定して考えるのは行き過ぎである。

南極の観測データがある。地表から200m下がると-50数度である。だんだん中へ入ると低くなって、2900mを超えると大体3度となる。さらに、その下は水である。温暖化によって、南極・北極の氷がどんどん溶けていると言うが、北極は氷が溶け南極は土のところが溶けている。気象変動が活発になると南極の氷は増えている。氷が崩れるのは冷静に考えると別の力である。大気変動が活発化し雨が雪となって積もると、重みによって氷河が押し出され海面へ出で支えが出来なく崩れるのであり、温暖化とは無関係である。気になるのはシベリアの凍土で、木々の伐採により、太陽が当たり、氷が溶け出し海になり、周りの木が倒れる現状がある。温暖化による海水面の上昇は氷ばかりではない。海の海水の膨張が60%、ヒマヤラの山岳の氷河が溶けて30%。グリーンランドの氷層が溶けるのは10%、南極は0%であり、温暖化=氷が溶ける=海面上昇ではない。緯度が低く海拔の低い所で大きな影響を受けている。

温暖化と雪形の間を、埋没林博物館あたりに定点カメラを据えて、僧ヶ岳の雪形や下方の雪線の上が増えていくペースをインターネットで県人に見てもらおうと思っている。昔の寝雪は、今は300m位まで上がっている。猪、鹿などの生き物の生活環境も変わってきている

【その他】 富山空港の前の道路に「もくねん樹」が植えられているが、選定したのは長井先生である。(大村会長)、中国との交流で中国にもあり日本海側にもあつて、あまり高くならなくて北アルプスが隠れない様にと提案し了解を頂いた。今、丁度、黄色い花が咲いており見頃です。